

日蓮宗の本尊

1、久遠の本仏について

- ・日蓮聖人は、如来寿量品第十六に説かれる「久遠の本仏」を本尊として拝みなさいと述べられています。
- ・久遠の本仏とは、インドにて活躍されたお釈迦様の本来の姿についてあらわされた言葉です。
- ・お釈迦様は、数えきれないほどの遠い過去に悟りを開かれ、過去・現在・未来へと教えを説き続けられている存在です。
- ・数えきれないほどの過去とは、130億年前といわれる宇宙の誕生よりもはるかに遠い過去です。
- ・如来寿量品第十六には、「我、仏を得てよりこのかた、経たる所の諸々の劫数 無量百千万 億載阿僧祇なり」という言葉で説かれています。
- ・「悟りを開く」とは、宇宙やこの世の過去・現在・未来など全てのことを理解できることを意味します。
- ・「悟りの内容（この世の法則）は、悟りを開いた者（仏）でないと解らない」と、方便品第二には「唯仏与仏 乃能究盡 諸法実相」の言葉であらわされています。

2、日蓮宗の本尊

- ・久遠の本仏は「南無妙法蓮華経」の七文字で表されています。
- ・「南無妙法蓮華経」は、お釈迦様が残された良薬であるのと共に、お釈迦様の本来の名前でもあります。
- ・久遠の本仏にお参りをすることにより、ご先祖様へのご供養が行き渡り、功德がご先祖様へ届けられます。
- ・右の写真の、上が「大曼荼羅御本尊」、下が「三宝尊」です。どちらかの御本尊を仏壇に安置し、お参りを致しましょう。
- ・法華経とお題目を讀唱し、供養・祈願・感謝、そして、「心の安らぎ」のためのお参りを致しましょう。
- ・ご仏壇へのお参りを生活の基本としましょう。また、仏壇の前以外の場所でも、心の中で「南無妙法蓮華経」と唱える生活を送りましょう。

